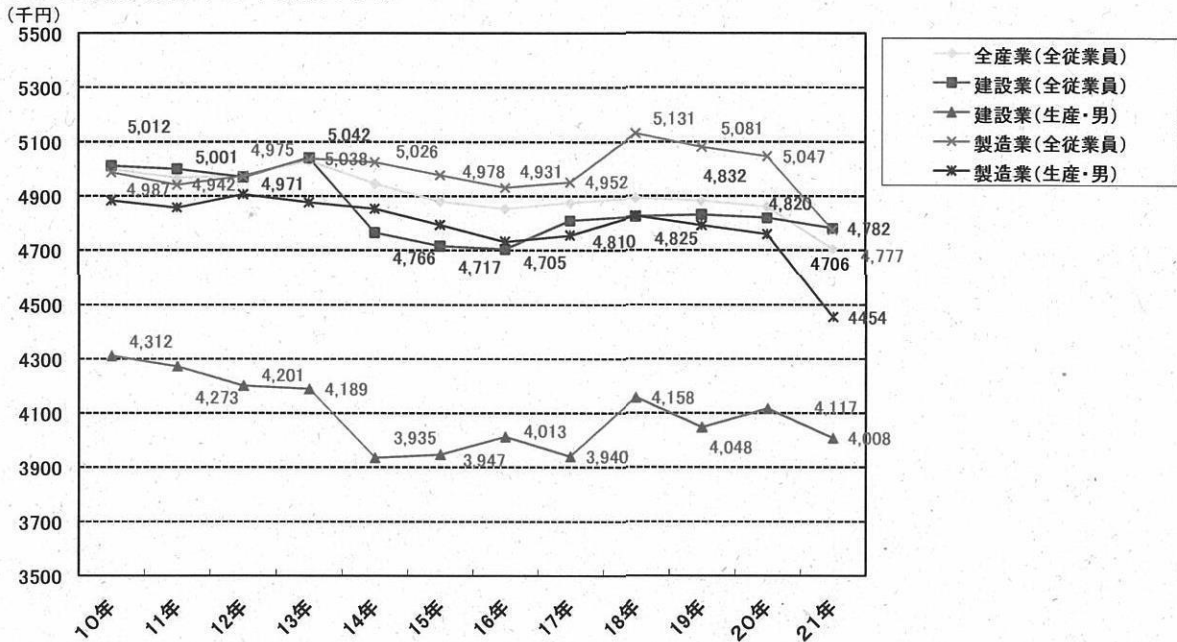


建設業の生産労働者の年収額の推移

建設業の生産労働者(男)の年収額は、ほぼ横ばいで推移しているものの、平成21年では全産業(全従業員)に比べ70万円、製造業(生産労働者・男)に比べ45万円低い、401万円。

生産労働者等の年収額の推移



資料:厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

注:推定年収額=毎月決まって支給する給与×12+年間賞與其他特別給与額

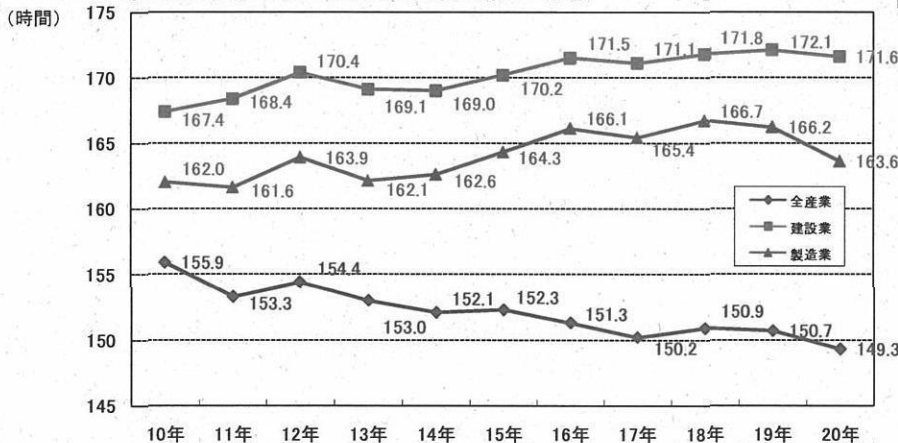
17

建設業労働者の労働時間の推移

建設業における労働時間はほぼ横ばいで推移しているが、全産業や製造業に比べて長く、平成20年の年間総実労働時間は、2,059時間。

完全週休2日制の普及状況は、21年では企業数で全産業では40%、建設業では28%。

常用労働者の月平均総実労働時間の推移



常用労働者の年間総実労働時間(20年)

区分	年間総実労働時間
全産業	1,792時間
建設業	2,059
製造業	1,963

資料:厚生労働省「毎月勤労統計調査」

注:事業所規模5人以上を対象

年間総実労働時間

=月平均総実労働時間×12か月

完全週休2日制の普及状況(21年)

(単位:%)

事項	区分	週休1日又は1日半	週休2日	
			完全週休2日	
企業数	建設業	6.8	89.0	28.1
	全産業	7.8	85.7	39.1
適用労働者数	建設業	3.9	91.2	50.4
	全産業	4.3	87.9	55.6

資料:厚生労働省「就労条件総合調査」

注:企業規模30人以上

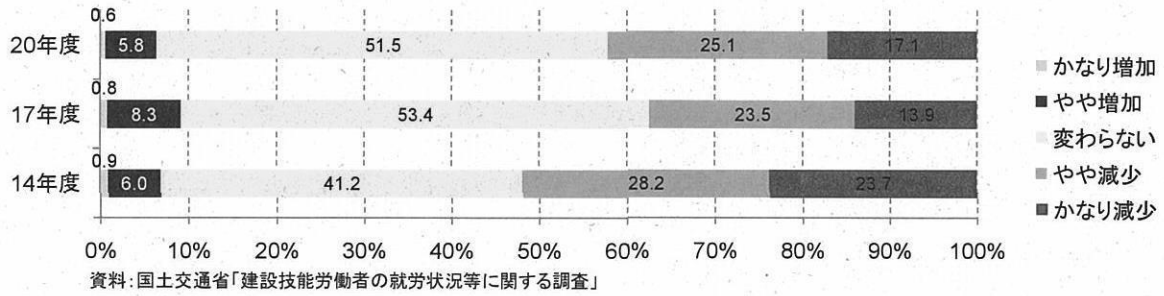
18

建設業での年収及び就労日数の増減

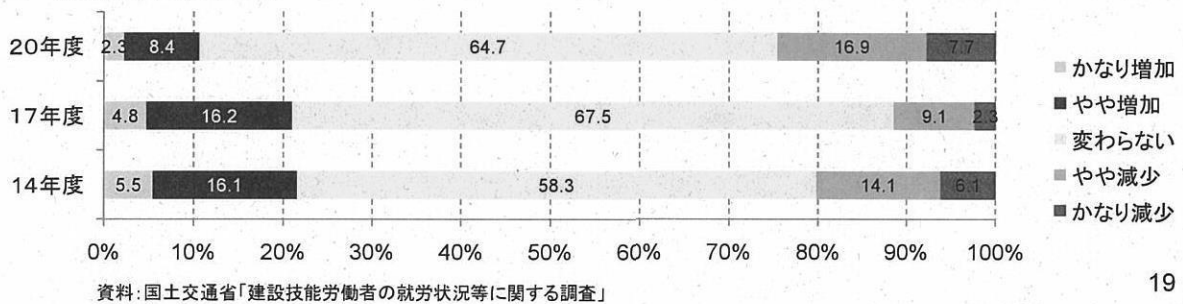
この1年間の建設業での年収の増減は、「変わらない」が5割以上を占め最も多いが、「やや減少」及び「かなり減少」を合わせると4割を超え、17年度より増加。

また、前年と比較した年間就労日数は、「変わらない」が6割と最も多いが、「やや減少」及び「かなり減少」を合わせると3割が減少したとしており、17年度より大きく増加。

■ 建設業での年収の増減



■ 年間就労日数の増減

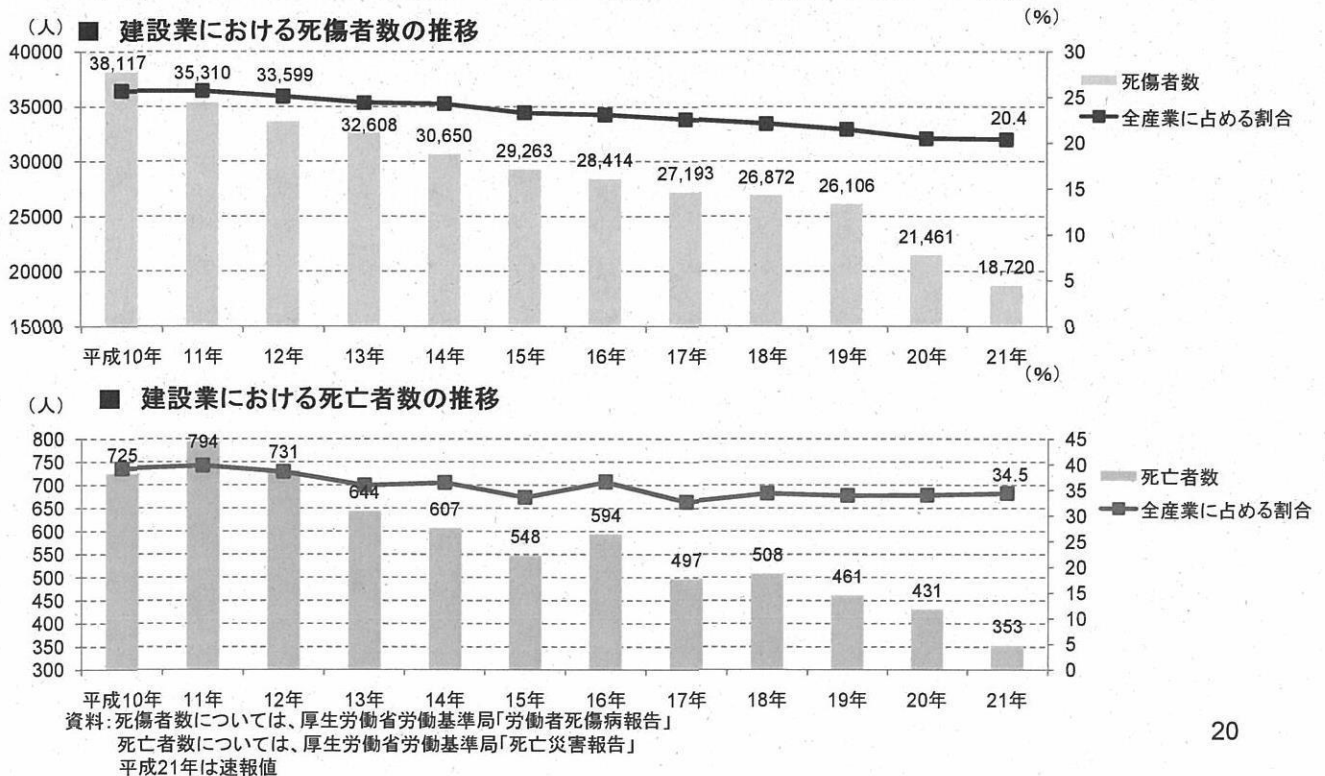


19

建設業における労働者災害の発生状況

建設労働者の死傷者数や死亡者数は、近年、減少傾向にあり、平成21年では死傷者数が19千人、死亡者数は353人。

全産業に占める割合は、死傷者数で20%、死亡者数で35%と高く、ほぼ横ばいで推移。



20